

2019年度 事業計画書





2019年 学院創立135周年・桃山学院大学60周年を迎えて

学校法人桃山学院 理事長 出田 善蔵

桃山学院は1884（明治17）年、英国聖公会宣教協会（CMS）が大阪の川口外国人居留地（大阪市西区）に三一小学校（男子英学校）を創設したことに端を発します。以後、幾多の変遷を経て、現在、昭和町キャンパスに中学校と高等学校、和泉キャンパスに桃山学院大学と大学院を設置していましたが、2018年度から設置者変更によりブルー学院大学を継承し、新たに「桃山学院教育大学」を開設するに至りました。これにより、本学院として、2大学と高校、中学の4校、新たに加わった堺キャンパスを含め3つのキャンパスで運営することとなりました。それぞれの設置校において、一貫して建学の主旨であるキリスト教精神に基づいた教育を行い、永い歴史のなかで優秀な卒業生を多数輩出し、社会から高い評価を得てきました。

一方で、少子化や社会・経済状況の変化により、私学をとりまく環境は年々厳しさを増し、本学院も少なからずその影響を受けておりますが、伝統ある本学院の事業を継承し、さらに発展させるべく堅固な経営基盤の構築を図ってまいります。2017年度から始まった学院全体のガバナンス体制強化に向けての検討は、理事会、理事長および各学校長の権限と責任の明確化を図り、法人および各学校における迅速な意思決定によって学院の運営がより円滑となるよう、その体制整備を推進しています。2019年度は「理事会のあり方」をはじめとする具体的な方策を実施してまいります。

また、2019年度桃山学院大学経営学部ビジネスデザイン学科の開設を機として、さらに桃山学院大学、桃山学院教育大学における新学部・新学科構想を含む学生入学定員増の取り組み、同時に桃山学院大学における大学中期計画で示されている教育の質向上に向けた取り組み、桃山学院教育大学および中学・高校におけるさらなる教学改革の取り組みに向けて、理事会においても強力にバックアップしてまいります。これらを踏まえ、学院全体として今後の中期的な将来構想を策定していく予定です。

施設面では、2018年度に計画した昭和町キャンパスにおける新棟建設の着工とともに、学生・生徒の勉学環境と満足度の向上を図るべく、和泉キャンパス（大学）、堺キャンパス（教育大学）および昭和町キャンパス（中学校高等学校）の改修を長期的な観点から引き続き実施してまいります。そのためにも、教育活動収入としての定員の長期的な確保に加え、補助金収入、寄付金収入、資産運用収入など学生生徒納付金以外の収入の増加を図り、安定的な財務構造の構築を目指します。理事会としても財務面を中心に最大限のバックアップを行い、学院内各学校の永続性および発展性を担保し、かつ教育・研究活動の環境整備を行うに適切な財政対応が必要な時期であることを十分に認識し、ここに2019年度の事業計画を策定しました。各事業計画については、PDCAサイクルを十分に稼働させ各々の計画の達成度を確認し、達成できなかった場合はその原因と改善策を探り、より有効なものとなるように進めてまいります。これにより教職員の意識改革も図っていく所存です。

2019年度は「学院創立135周年・桃山学院大学大学開学60周年」にあたります。この節目の年を迎えるにあたって、本学院の歴史を振り返り、その使命を再確認する機会としたいと思います。そのうえで、各設置校のさらなる発展、および社会からより評価される学院となることを目指し、教職員が一体となって鋭意努力してまいりますので、皆様方の一層のご支援とご協力を賜りますようお願いいたします。

CONTENTS

理事長メッセージ.....	1	桃山学院教育大学事業計画.....	4
桃山学院大学事業計画.....	2	桃山学院中学校高等学校事業計画.....	5



事業計画の策定にあたって

桃山学院大学 学長 牧野 丹奈子

桃山学院大学は、キリスト教新教渡来 100 年を記念する 1959（昭和 34）年に、現在の桃山学院中学校・高等学校がある阿倍野区昭和町に開学しました。同年 4 月 6 日に 365 名の第一期生を迎え入学式が行われ、その後、登美丘キャンパス（大阪府堺市）、和泉キャンパス（大阪府和泉市）への移転、学部・大学院の設置や改組を経て、本年、大学開学 60 周年を迎えます。

今日の社会では、A I（人工知能）、エネルギー、バイオテクノロジー等、さまざまな分野で技術革新が驚異的なスピードで進んでいます。このような社会的背景に照らし、開学 60 周年となる本年 4 月に新しい社会をリードできるアントレプレナーとしての素養と実行力を備えた人材の育成を目的として、経営学部ビジネスデザイン学科を大阪市内（大阪市中央区）に開設しました。これにより、本学は 5 学部 7 学科・4 大学院研究科を擁する大学となりました。

また、2017 年度から 2021 年度までの大学中期計画も 3 年目を迎えました。計画に基づき、今年度は本学の教育の見える化を推進、2020 年度カリキュラム改革に向けた準備、国際化の推進や健康スポーツ教育への取り組み等を重点項目として着実に実行することで、「桃大ブランドの復権」を目指します。

■ 2019 年度の主な事業について

<カリキュラム改革>

- ①2020 年度のカリキュラム改革に向けて、学生が興味・関心を持ち、各学部・学科の専門教育にスムーズに接続できる共通教育を整備します。
- ②一般学生への健康・スポーツ教育の運営、スポーツ推薦等での入学者への学修支援、一般社団法人大学スポーツ協会（UNIVAS）への対応およびスポーツでの地域連携業務を担う「スポーツ科学センター（仮称）」の設置に向けた準備を行います。

<創造力、実践力を高める教育の推進>

経営学部ビジネスデザイン学科の開設に続き、創造力、実践力を高める教育を大学全体に展開するため、学部、学科の設置・改組等の組織の検討、コースやプログラムの計画を取りまとめ、桃大の復権を目指します。

<情報のオープン化の推進>

教育力向上プロジェクトとして、組織・個人単位での自己点検・評価活動を実施し教育の質保証を実現すると共に、更なる教育情報のオープン化を推進します。

<研究成果の「見える化」を推進>

教員の研究成果を取りまとめた「専任教員の教育・研究業績報告書」について、広く社会への情報公開を推進します。

<長期派遣留学準備コースの設置>

全学プログラムである Super Global Program (SGP) を発展させ、入試段階からの募集も踏まえた学科やコースの設置計画を取りまとめます。

<文科省「高大接続改革」への対応>

高大接続システム改革の内容と他大学の情報を踏まえた新たな入試制度について、調査・企画・原案の検討を行います。

<大学の施設・設備の学生満足度の向上>

健康増進法改正の趣旨に則り、大学の敷地内禁煙の実現に向けて必要な取り組みを行います。



事業計画の策定にあたって

桃山学院教育大学 学長 梶田 叡一

2018年度に桃山学院二つ目の大学として開設されました本学も2年目を迎えることになりました。キリスト教精神にもとづき、人間教育の理念に沿った教育を目指して、教職員一丸となってこの一年専心してまいりました。

また、2019年度入試におきましては、前年度を上回る志願者数がありました。

引き続き自分磨きをする学生を徹底的にサポートし、結果責任を果たせる組織づくりを目指してまいります。

■ 2019年度の主な事業について

<学部・学科名称変更>

この一年実践してまいりました人間教育の理念をよりわかりやすくするために、2020年度より「人間教育学部人間教育学科」とします。

<免許・資格課程の充実と入学定員増>

昨年度は、2020年度としておりました免許・資格課程の充実および入学定員増につきましては、検討の結果、その時期を2021年度とし、また志願者の増加を考慮し入学定員を当初の目標であった250名から300名にするための検討を行います。

具体的な免許・資格課程につきましては、2免許（中学校・高校英語教員免許・国語教員免許）資格（日本語教員資格）に加えて、公認心理師の資格も取得できるように検討します。

<大学院の設置>

社会人や現職教員の学びなおし等の要請に応えるべく2022年度を目途に専修免許状等を取得できるように大学院の設置を検討します。

<教員採用試験合格対策>

昨年度の「十一人の侍」大作戦に続いて、今年度は教職センターのアドバイザーを増員し、指導体制を強化し、採用試験対策を万全にします。

<教育実習・インターンシップの充実>

教育現場が求める教員の養成ができるようにチューターおよび教科担当者との連携により徹底した指導のもと、教育実習以外にも学年に応じたインターンシップができるようにします。

<公務員採用試験対策>

多くの実績を残してきた職員が、一年間指導した結果、一定の成果をあげましたが、さらに受験先に応じたきめ細かな対策と指導を行い、昨年度を上回る実績を残せるよう指導にあたります。

<国際交流プログラムの充実>

2018年度には、教員等を目指す学生を対象に約2週間のカンボジア研修を実施し、学生は多くの気づきと文化の多様性を理解することができました。今年度におきましても、学生により多くの経験と学びができるよう研修先を増やします。

<堺キャンパスの整備>

学内全域にwifi設備を敷設します。学内の情報インフラを整備することにより、ICTを利用した教育ができる教員の養成を目指します。また、教学システムとして今年度中にe-ポートフォリオの導入を目指します。

<桃大との連携強化>

桃山学院大学との具体的な連携として、2020年度からの試行を目指して、互いの授業が履修できるように遠隔授業について検討してまいります。

これ以外にも本学が実施する事業に桃山学院大学からの学生を受け入れ、桃山学院大学の事業に本学学生が参加できるように検討します。



事業計画の策定にあたって

桃山学院中学校高等学校 校長 岡田 賢三

英国聖公会宣教師 C.F.ワレン師らにより設立された桃山学院は、今年で135周年を迎えます。この長い歴史の中で、一貫して桃山学院が目指してきたものはキリスト教精神に基づく人間教育であり、具体的には「神への信仰心・他者への愛・公の精神」の涵養です。そして桃山学院中学校高等学校は生徒一人ひとりの人格と個性を尊重しつつ、真に社会に貢献できる「人間力」を備えた若者をこれからも育成していきます。また、大学進学実績向上にも一層力を注ぎ、将来大阪の私学No.1になるための土台作りの年度にしたいと考えます。

■ 2019年度の主な事業について

<進路指導の充実>

本校の国公立合格者数は近年増加傾向にある中で、2019年度は新センター試験実施年度にあたることも踏まえ、生徒自身の第一志望合格を目指し、各教科・高3学年団・各コース主任・進路指導部が連携して綿密な進路指導を行います。

<教員の指導力の向上>

教員の指導力向上のため、相互の授業見学を実施するとともに、外部講師を招き「指導力向上セミナー」を実施します。

<グローバル化の推進>

本校には長年に渡る米国聖公会関係学校との交換留学制度がありますが、近年のグローバル化にあわせ、さらに拡大を目指します。また、マレーシア・台湾の高校生たちとの交流会を本校で実施する予定です。

<大阪府外の在籍者数を100名に>

大阪府外からの入学者の拡充に取り組みます。本校の建学の精神・校風・進学実績等を受験生やその保護者に理解していただけるように広報活動を積極的に行い、本学の知名度の向上に努めます。